

会議概要（速報）

件名	令和7年度第2回 新潟市食育推進会議	
日時	令和7年11月19日（水）午後2時～4時	
場所	ふるまち庁舎 401会議室	
出席者	委員	五十嵐委員、黒滝委員、斎藤委員、武田委員、松川委員、宮川委員、村井委員、村山委員、和須津委員 (欠席：佐藤委員、竹内委員、廣川委員)
	事務局	【食と花の推進課】高山課長、木島課長補佐、井浦係長、春川主査、遠藤主査、池田主査、多田（地域活性化企業人）
	関係課等	保健所健康増進課、保健所食の安全推進課、教育委員会保健給食課、こども未来部幼保支援課、環境部循環社会推進課、食育・花育センター
概要	<p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>(1) 新潟市食育推進会議委員の食育に関する取組報告【資料1-1、1-2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料1-1に基づき、各委員より食育に関する取組を報告 ・資料1-2に基づき、教育委員会保健給食課より中学校の全員給食化の現状について報告 <p>(2) 第5次食育推進計画の視点及び方向性について【資料2～4】</p> <p>資料2に基づき、次期計画策定に向けた視点と方向性について事務局より説明。 あわせて、国の方向性について資料3、市の総合計画との関係について資料4を用いて説明</p> <p>【主なご意見・質問等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新たな日常」への対応については、ICTの活用の視点が含まれていたため、その部分は残した方がよい。 ・若い世代への伝え方について、SNS等のツールを活用した情報発信方法について引き続き検討していくべき。 ・「新潟らしい」食育について、具体的な定義づけがあるとよい。 <p>(3) 第5次食育推進計画の数値指標の検討について【資料5～8】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料5に基づき、現計画の中間評価結果を踏まえた次期計画の方向性及び次期計画の指標（案）について事務局より説明。 ・食品ロスに係る指標の現状について資料6、食文化関係指標の国及び他自治体の現状について資料7、朝食欠食の他計画での扱いについて資料8に基づき事務局より説明。 	

【主なご意見・質問等】

■食べることを「楽しい」と思う市民の割合について

- ・「楽しい」は抽象的な表現であるため、「好き」等、より回答しやすい表現も検討してはどうか。

■食指導関連指標について

- ・小学校での食指導は十分と感じる。全員給食化の波もあるため、対象を中学校としてはどうか。
- ・中学生はさまざまな内容が的確に伝わる年代であり、この時期にきめ細やかな食育を行うことが重要。

■食品ロスについて

- ・家庭における食品ロス削減の取組は一定程度浸透している状況がうかがえるが、外食の場面における食品ロスについても指標化・項目追加を検討してはどうか。
- ・目標達成している指標として、「農林漁業体験を経験した市民の割合」と「食品ロスを減らすために取り組んでいる市民の割合」があるが、食品ロスを指標として残したい理由は何か。
→農業体験については ASP として指標が残るが、「循環」という視点では食品ロスが唯一の指標となるため、残したいと考えている旨事務局より説明。
- ・関係課循環社会推進課より、「ごみ・資源」に関する計画において、「食品ロス」は指標となっていない旨現状を説明。ごみ全体量が指標となっており、中身の調査も隔年で行っているが、「食育」で考えたときに、量自体よりも市民の意識を指標にした方が良いのでは、と考えている旨説明。

■食文化関係指標について

- ・アンケート回答時のわかりやすさの観点から、いくつか郷土料理名を挙げて、「知っているか」を聞かれると答えやすいと思う。
- ・郷土料理名を具体的に挙げてアンケートを取るのが良いと思う。郷土料理にはそれぞれストーリーがあるため、郷土料理を知ること、そのストーリーを知ることができる。

■減塩に関する指標について

- ・食育推進計画でも減塩を指標とすることは賛成。

■指標設定する年代について

- ・若年層を重点ターゲット層とすることは賛成。
- ・重点ターゲットが若い世代なのは良いが、食が大切なことは全年代変わらないと思う。
- ・若い世代において、「朝食」や「バランスの良い食事」「減塩」はとても大切だと思うが、忙しい世代にどう伝えていくかが課題と感じる。

- ・若い世代に行うアンケートは、郵送だけでなく、web や二次元コードなどを使って行っても良いのでは、と感じる。
- ・大学生の食や食文化への意識は重要であり、タイムパフォーマンス（タイパ）やコストパフォーマンス（コスパ）を重視する傾向、共働き世帯の増加といった社会状況を踏まえ、18～39 歳を1つの層として捉える視点も必要。

(4) 「食育」に関する市民アンケート調査について

- ・資料9に基づき、市民アンケート調査の目的と概要について事務局より説明。
- ・4次計画策定時（令和3年度実施時）のアンケートでは、郵送に加えてウェブ回答も実施したが、郵送のみで実施した「市民の健康づくりに関する調査」と比べて、回答率に大きな差はみられなかったことから、次回調査は郵送方式のみとする案を事務局から示した。

【主なご意見・質問等】

- ・二次元コードから回答できる仕組みとすることで、回答率が上がるのでは。
- ・郵送での調査とする場合でも、封筒の色を変えるなど、開封・回答につながる工夫を行うべき。

(5) その他

黒滝委員より情報共有

①学校給食現場を視察結果について

②市販されている野菜の種には国外産のものが多い現状があり、野菜栽培においては収穫物だけでなく「種」にも着目し、それが再び植物として育っていく循環への意識を高めていくことが重要であるとの報告

4 連絡事項

5 閉会

傍 聴	なし
報 道	なし